

福井工業高等専門学校		開講年度	平成30年度（2018年度）		授業科目	技術者英語コミュニケーション演習	
科目基礎情報							
科目番号	0056		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		後期:2		
教科書/教材	"English for Information Technology"						
担当教員	原口 治,ウィリアム・エドワード・ウィルキ,中山 裕木子						
到達目標							
1) 理数系、工学系に関する語彙を習得し、理数系、工学系の簡単な英文を読んで理解できる。 2) 身近な話題や日本文化について英語で説明することができる 3) 自らの専門分野の英語論文アブストラクトを完成させる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1		学習した理数系、工学系の語彙や表現のほとんどを英訳、日本語訳がほぼできる。		学習した理数系、工学系の語彙や表現の半分程度、英訳、日本語訳がほぼできる。		学習した理数系、工学系の語彙や表現の英訳、日本語訳がほぼできるようになる必要がある。	
評価項目2		学習した範囲の理数系、工学系に関連する語彙を使って、英文の和訳、表出ができる。		学習した範囲の理数系、工学系に関連する語彙を使って、誤りを含みながらも英文の和訳、表出ができる。		学習した範囲の理数系、工学系に関連する語彙を使って、誤りを含みながらも英文の和訳、表出ができるようになる必要がある。	
評価項目3		身近な話題や日本文化についてまとまった内容で表現することができる。		身近な話題や日本文化について何とか表現することができる。		身近な話題や日本文化についてまとまった内容で表現することができるようになる必要がある。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE JC1							
教育方法等							
概要		1) 理数系、工学系に関する語彙を習得し、理数系、工学系の簡単な英文を読んで理解できる 2) 身近な話題や日本文化について英語で説明することができる					
授業の進め方・方法		授業は原則 1) と 2) の2部構成とし、定期的に 3) を取り入れながら進める。 1) 理数系、工学系の内容を扱ったテキストを使用し、ライティング、スピーキングを中心に関連する語彙の習得を目指す。 2) リーディング、スピーキングに取り組みながら身近な内容を簡単な英語で表出する練習を課す。 3) 定期的にTOEIC試験や工業英語検定等の資格試験を体験する機会をもつ。					
注意点		評価基準：専門分野の英語アブストラクト作成（ライティング他）基礎的能力とネイティブスピーカーとの英語運用の基礎能力を有しているかどうか。 評価方法：定期試験（50パーセント）＋英語プレゼンテーション（50パーセント）					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Using Web sites in English		情報社会の重要スキル（ウェブサイト）を英語で使うことができる。		
		2週	Using numbers in English		テクニカルイングリッシュの基本的な数量表現を英語で理解することができる。		
		3週	Using an instruction manual in English		エンジニアとして一般的な取り扱い説明書を英語で理解することができる。		
		4週	Using email in English		情報社会の重要スキル（eメール）を英語で使うことができる。		
		5週	Describing components		エンジニアとして部品の一般的内容を英語で理解することができる。		
		6週	Describing a product		エンジニアとして製品の一般的内容を英語で理解することができる。		
		7週	Using instruction manual		エンジニアとして一般的な取り扱い説明書を英語で説明することができる。		
		8週	後期中間まとめ		Unit 1-4 復習		
	4thQ	9週	Explaining how cooling systems work		エンジニアとして冷却装置の一般的内容を英語で理解することができる。		
		10週	Giving a demonstration		英語プレゼンテーション原稿作成に必要な「英語表現」の習得（説得力のスキル）。		
		11週	Using a specifications chart		英語プレゼンテーション原稿作成に必要な「英語表現」の習得（チャート）。		
		12週	技術英語ライティング講座（Ⅰ）		技術英語の専門家（社会人）を特別講師として、英語論文のライティングスキルを習得する（動詞他）。		
		13週	技術英語ライティング講座（ⅠⅠ）		技術英語の専門家（社会人）を特別講師として、英語論文のライティングスキルを習得（名詞他）する。		
		14週	技術英語ライティング講座（ⅠⅠⅠ）		技術英語の専門家（社会人）を特別講師として、英語論文のライティングスキルを習得し、自らのアブストラクトを完成する。		
		15週	既習事項の総復習		既習事項の総復習及び英語プレゼンテーション原稿完成。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
評価割合						
		定期試験	課題		合計	
総合評価割合		50	50	0	100	
基礎的能力		50	50	0	100	
専門的能力		0	0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	0	